

【別添1】

専門課程 一般科目

訓練支援計画書（標準シラバス）

【令和6年度版】

訓練支援計画書（シラバス）

別添

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	職業社会概論	必須		1	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	職業社会概論					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
どの業界に就職するにも必要な最低限のビジネスコミュニケーションを身に着ける。授業を通して、卒業までの自身のキャリアデザインを考え、自分を活かして生きていける自信を育成する。自分、他者、仕事に主体的に向き合い、将来を展望することのできる力を作る						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
社会人としてキャリアを形成するうえで必要なプロフェッショナルマインドを意識させます。要求されている人材像を理解し、学生の間に見つけておかなければならないビジネスコミュニケーション力を学びます。自分の能力を引き出す考え方を習得し、自己実現力を高めることに取り組み、実践的に学びます	①	学生と社会人の大きな違いを考え、自身の成長意識を育てる				
	②	ビジネスパーソンとして重要な第一印象の重要性を知る				
	③	企業がもつめる人間性、コミュニケーションの重要性を知り、自身のキャリア形成を考える				
	④	社会人として適切な表現力を学び、対人関係を養う				
	⑤	会社訪問、アポイントの取り方を学ぶ				
	⑥	電話応対ができる				
	⑦	コミュニケーションツールが正しく使い、礼儀にかなった適切なビジネス文書を作成できる				
	⑧	企業における報告・連絡・相談の重要性を知る				
	⑨	ビジネスマインド、ビジネスコミュニケーションを習得する				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	社会人として最低限の常識、ビジネスマナー、コミュニケーション力の再確認です。
授業科目についての助言	コミュニケーション力は「わかる」ではなく、「できる」ようになることが重要です。何度もロールプレイングを行うことで、ビジネスパーソンとしての実践力が身につきます。しっかり身につけて、実習先で率先力を発揮できるようにしましょう。
教科書および参考書(例)	実践ビジネスマナー（ウィネット）
授業科目の発展性	自分の良さや能力を見つめ、社会人として求められる人材要件を向上させる 自己表現力と対人関係を向上させることが出来る

評価の割合							
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	課題プリント	授業態度		合計
		60	5	15	20	0	100
評価割合	授業内容の理解度	30	5				I 期
	技能・技術の習得度	30					
	コミュニケーション能力			5			
	プレゼンテーション能力			10			
	論理的な思考力、推論能力						
	取り組む姿勢・意欲				10		
	協調性				10		

回数	訓練の内容	日時	訓練の運営方法	訓練課題 予習・復習
1週	1. ガイダンス (1)シラバスの提示と説明 2. 社会人と学生の違い (1)社会人と学生の違いについてのディスカッション (2)自分に足りないものを知る (3)社会人としての行動について知る	4月11日	講義・ディスカッション	社会人と学生の違いについて、項目ごとに考えます。自分に足りないものを知り、それを補うための意識付けをします。与えられた課題を時間内に提出してください。
2週	1. 第一印象の重要性 (1)社会人として重要な第一印象 2. 社会人偏差値 (1)キャラクターを知る (2)表現力を強化する	4月18日	講義・ロープレ	他人に与える自分の印象について考えます。ビデオ撮影し、自分の印象を客観的に見ることにより、キャラクターを知ります。
3週	1. 社会人としてのこころ構え (1)会社組織の仕組み (2)社内・社外のコミュニケーション (3)コミュニケーションの基本	4月25日	講義・ロープレ・ディスカッション	社会人としてのこころ構えを知る。会社の仕組みを知り、社内外のコミュニケーションを学びます。与えられた課題を時間内に提出してください。
4週	1. 社会人の表現の常識 (1)敬語の重要性 (2)尊敬語・謙譲語・丁寧語の使い分けについて知る (3)間違えやすい対応用語 ・二重敬語や間違った対応用語について知る	5月9日	講義・ロープレ・ディスカッション	敬語の重要性を知り、正しい敬語について学びます。与えられた課題を時間内に提出してください。
5週	1. 訪問 (1)訪問時のマナーを知る (2)名刺の扱い (3)歩き方・座り方 (4)訪問時のタブーについて知る	5月16日	講義・ロープレ・ディスカッション	ビジネスで日常的に行われる訪問について知ります。学んだ訪問ロープレについて、スムーズにできるように各自で何度も練習しましょう。
6週	1. 電話でのコミュニケーション (1)電話の特性 (2)電話対応の基礎知識 (3)かけ方と受け方 (4)取次ぎの仕方	5月23日	講義・ロープレ・ディスカッション	電話のメリット・デメリットについて考えておきましょう。学んだ電話のロープレについて、スムーズにできるように各自で何度も練習しましょう。
7週	1. コミュニケーションツール (1)コミュニケーションツールの使い分け (2)社内文書と社外文書 (3)ビジネスメール ・変換ミスについて	5月30日	講義・ロープレ・ディスカッション	コミュニケーションツールの使い分けと文書作成について考えておきましょう。与えられた課題を時間内に提出してください。
8週	1. 報連相 (1)指示の受け方と報告の仕方 (2)連絡と相談 2. テスト (1)社会人になるための必要事項を確認する	6月6日	講義・ロープレ・ディスカッション	テストを時間内に提出してください。与えられた課題を時間内に提出してください。
9週	1. テスト返し (1)テスト内容の解説 (2)質疑応答 2. 職業社会概論総括	6月13日	講義・ロープレ・ディスカッション	職業社会概論、最後の授業です。前回までに行った内容を見直しておいてください。

訓練支援計画書（シラバス）

別添

科名： 各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	職業社会概論	必須	Ⅶ期	1	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	社会科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界、仕事内容に関係なく、これからの長きにわたる職業生活を豊かで確実なものにするために必要不可欠な概念、スキルです。						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
社会人・職業人として、自身が主体性を持って自分自身の能力や特性に合わせたキャリア形成を行うことの必要性と、その方法・考え方について課題等を通じて学習する。	①	教科の目標を知りルールを理解する。働くことについての意義、目的を考える。				
	②	キャリア形成の重要性を認識する。				
	③	自己分析により自身についての認識を深める。社会の中での自身の役割について考える。				
	④	社会・企業の求める人材を知ること、自分を取り巻く未来の環境変化を認識する。				
	⑤	様々な職業や仕事の種類を知り、職業選択に向けてのヒントを得る。				
	⑥	コミュニケーションスキルを高め、実践力を養う。				
	⑦	将来に向けての希望、目標を見据え、自身のキャリアビジョンについて考える。				
	⑧	修了試験の実施。				
	⑨	仕事の進め方や組織で働くために必要なチームワークについて考える。				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	特に必要ありません
授業科目についての助言	キャリア形成は自分の未来を思い描くところから始まります。そして、自分を知り、したいこと・できることを明確にしていくことで、自身の積むべきキャリアが見えてきます。この訓練を通じて、自分のこれからの社会人としての人生（目標）を描いてみましょう。
教科書および参考書（例）	キャリア基礎講座テキスト（日経BP社）
授業科目の発展性	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">キャリア形成概論</div> <div style="font-size: 24px;">—</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">職業社会論</div> </div>

評価の割合（例）							
指標・評価割合	評価方法	試験	課題レポート	授業レポート	授業態度		合計
			60	10	20	10	
評価割合	授業内容の理解度	25	5	10			
	技能・技術の習得度	20		5			
	コミュニケーション能力	5					
	プレゼンテーション能力						
	論理的な思考力、推論能力	10	5	5			
	取り組む姿勢・意欲				5		
	主体性・協調性				5		

回数	訓練の内容	訓練の運営方法	訓練課題 予習・復習
1週目 ①	シラバスによる科目・目標を知る 第1章「はたらく」意味を考える	座学+Grワーク	働くことの意義、社会のしくみ、働き方についての考察を行う。
1週目 ②	第2章「キャリア」について考える キャリアとは キャリアを創り出す キャリア理論	座学+Grワーク	キャリアとは何かを認識し、キャリア形成についての枠組みを知る。
2週目 ③	第3章「自分の轍」を考える 「本当の自分」とは ライフロール(役割)について考える エゴグラム	座学+Grワーク	過去の振り返りや自己分析チェックから、自己理解の意義と方法を知ると同時に、個性(強み・弱み)、価値観を知る。
2週目 ④	第4章「社会が求めていること」を考える 「社会人基礎力」とは エンプロイアビリティについて 社会人基礎力シート	座学+Grワーク	社会人として求められている能力と資質について理解し、現在の自分自身の能力、資質についてのチェックを行う。
3週目 ⑤	第5章「職業」を考える 適職と天職とは 業界・職業研究 企業・職種研究	座学+Grワーク	様々な職業や仕事の種類を知り、職業選択に向けてのヒントを得る。
3週目 ⑥	第6章「未来のはたらきかた」を考える 人生100年時代 AI時代のはたらきかた 知っておきたいワークルール	座学+Grワーク	現在と未来の人口やワークルール、AIの導入による働きかたの今を知り未来を考える。
4週目 ⑦	第7章「希望」について考える キャリアビジョンについて フォロワーシップについて	座学+Grワーク	将来に向けての希望、目標を見据え、自身のキャリアビジョンについて考える。
4週目 ⑧	テスト	修了試験	修了試験の実施。
5週目 ⑨	「組織で働くこと」について考える PDCA チームワーク	座学+Grワーク	ワークを通じて、仕事の進め方、チームワークの重要性を理解する。

訓練支援計画書（シラバス）

別添

科名： 各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間/週
訓練課程	専門課程	キャリア形成概論	必須	I II期	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	社会科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
どの業界・仕事においても生涯を通じた就業力として必要な知識						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
社会人・職業人として、自身が主体的性を持って自分自身の能力や特性に合わせたキャリア形成を行うことの必要性とその方法について、学習し、今後の就職活動に生かす。	①	教科の目標を知る。就職活動の流れを知る。				
	②③	自己理解、自己分析①②				
	④⑤	ジョブ・カード履歴書①②				
	⑥⑧	ジョブ・カード作成①②				
	⑨⑩	求人状況、就職状況・企業研究①②				
	⑪⑫	自己PR①②				
	⑬⑭	WEB試験・SPI試験				
	⑮⑯	履歴書・エントリーシートの書き方①②				
	⑰⑱	面接対策①②				
	⑲	まとめとレポート提出				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	特に必要ありません
授業科目についての助言	これまでに経験し、獲得した自己PRできる内容を書き出し、確認しましょう。エントリーシート、就職面接には必ず必要になります。
教科書および参考書	自作テキスト
授業科目の発展性	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">キャリア形成概論</div> ————— <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">職業社会論</div> </div>

評価の割合(例)							
指標・評価割合	評価方法						
	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	30		20		30	20	100
評価割合	授業内容の理解度	10		10			
	技能・技術の習得度			10			
	コミュニケーション能力					10	10
	プレゼンテーション能力	10				10	
	論理的な思考力、推論能力					10	5
	取り組む姿勢・意欲	5					5
	協調性	5					

回数	訓練の内容	日時(予定)	訓練の運営方法	訓練課題 予習・復習
1	ガイダンス・就職活動の流れ マイナビ・リクナビ登録・相談票記載		座学&ワーク	就職活動の流れを知る。 リクナビ・マイナビ等に登録を行い求人情報を得られるようにして、就職活動を行うための準備をする。
2	自己理解と自己分析1		座学&ワーク&レポート	自分のことを知り、自分を表現するエピソードを振り返る1
3	自己理解と自己分析2		座学&ワーク&レポート	自分のことを知り、自分を表現するエピソードを振り返る2
4	ジョブ・カードと履歴書1		座学&ワーク&レポート	基本的な書き方と注意点
5	ジョブ・カードと履歴書2		座学&ワーク&レポート	効果的な書き方や自分を表現できる書き方
6	ジョブ・カードの作成1 プロフィールの記入、文章の書き方		座学&ワーク&レポート	過去の経験を棚卸する
7	WEB模擬テスト1		対策テスト	適性検査対策WEBテスト
8	ジョブカード作成2 アピールポイント、志望動機、その他記入		座学&ワーク	自分の長をアピールできるように まとめ今後の生き方を考える
9	求人状況、就職状況・企業研究1		座学&ワーク	求人状況や就職状況を知り、希望する企業を選択し、研究する1
10	求人状況、就職状況・企業研究2		座学&ワーク	求人状況や就職状況を知り、希望する企業を選択し、研究する2
11	志望動機と自己PR1 思いの強いエピソード		座学&ワーク&レポート	志望動機・自己PRの書き方と問題点を洗いだし、自身を表現できるようにする1
12	志望動機と自己PR2 エピソードを選んで記入		座学&ワーク&レポート	志望動機・自己PRの書き方と問題点を洗いだし、自身を表現できるようにする2
13	SPI試験		テスト	SPI試験実施
14	正しい履歴書、エントリーシートの書き方1 (インターシップ先に提出用)		座学&ワーク&レポート	履歴書・エントリーシート(案)の作成1
15	正しい履歴書、エントリーシートの書き方2 (インターシップ先に提出用・就職活動ワークブック配布と活用)		座学&ワーク&レポート	履歴書・エントリーシート(案)の作成2
16	面接対策1		座学&ワーク	面接における、第一印象の重要性
17	面接対策2		座学&ワーク	面接における自己アピール
18	自己確認(適性検査、SPI試験結果返却) まとめ、個人指導		座学&ワーク&レポート	キャリア教育のまとめとレポート

訓練支援計画書（シラバス）

別添 6

科名： 各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間/週
訓練課程	専門課程	数学	必修	電情1 電気・生産・ 住居 1・2	2	1
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	自然科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術						
授業科目受講に向けた助言						
予備知識・技能技術	高校で学んだ「数学」の知識を見直しておくことをお勧めします。					
授業科目についての助言	高校の数学で三角関数や微分積分などを学び、計算の仕方やグラフの描き方などは理解してきたと思いますが、その数式や関数などが、どのような概念・原理に基づいているかについては、あまり把握してこなかったのではないかと思います。この授業科目では、これから実践技術者として活躍していくうえで必要な数学を原理から学んでいきますので、高校までの暗記型の学習ではなく、原理に基づいて勉強し、わからないことは質問していき、身につけていきましょう。					
教科書および参考書	テキスト : 自作テキスト 参考書 : やさしく理解する 大人のための中学・高校数学 (誠文堂新光社)					
授業科目の発展性	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">数学</div> <div style="font-size: 20px;">—</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">数学演習</div> </div>					

評価の割合								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
評価割合	授業内容の理解度	50	15	15			20	100
	技能・技術の習得度	50	15	5				
	コミュニケーション能力							
	プレゼンテーション能力							
	論理的な思考力・推論能力							
	取り組む姿勢・意欲			5			20	
	主体性・協調性			5				

出席に関しては、一回休むごとに-5点とし、4回の欠席で単位認定が出来なくなりますので注意してください。欠席の場合は要連絡。

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	ガイダンス 1. 実用数学 (1) 技術者に必要な数式と計算法①	講義	実用数学について復習をしてください。
2週	1. 実用数学 (1) 技術者に必要な数式と計算法②	講義	実用数学について復習をしてください。
3週	1. 実用数学 (1) 技術者に必要な数式と計算法③	講義	実用数学について復習をしてください。
4週	1. 実用数学 (1) 技術者に必要な数式と計算法④	講義	実用数学について復習をしてください。
5週	2. 三角関数 (1) 三角比	講義	三角関数について復習をしてください。
6週	2. 三角関数 (2) 正弦・余弦定理	講義	三角関数について復習をしてください。
7週	(3) 加法定理①	講義	三角関数について復習をしてください。
8週	(3) 加法定理②	講義	三角関数について復習をしてください。
9週	3. 指数・対数 (1) 指数関数	講義・確認	指数・対数について復習をしてください。
10週	3. 指数・対数 (2) 対数関数	講義	指数・対数について復習をしてください。
11週	(3) 自然対数と常用対数①	講義	指数・対数について復習をしてください。
12週	(3) 自然対数と常用対数②	講義	指数・対数について復習をしてください。
13週	4. 微分 (1) 微分係数	講義	微分について復習をしてください。
14週	4. 微分 (2) 導関数	講義	微分について復習をしてください。
15週	5. 積分 (1) 不定積分	講義	微分・積分について復習をしてください。
16週	5. 積分 (2) 定積分①	講義	微分・積分について復習をしてください。
17週	5. 積分 (2) 定積分②	講義	微分・積分について復習をしてください。
18週	評価	評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

訓練支援計画書

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間/週
訓練課程	専門課程	数学演習	必修	電情1 電気3 生産・住居 3・4	2	1
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	自然科学					
担当教員		内線電話番号	電子メールアドレス		教室・実習場	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
実践技術者として、専門領域において必要となる基礎的な数学及び計算法についての知識を習得する。	①	三角関数の計算法について知っている。				
	②	指数関数の計算法について知っている。				
	③	対数関数の計算法について知っている。				
	④	微分係数と導関数の計算法について知っている。				
	⑤	不定積分と定積分の計算法について知っている。				
	⑥	場合の数の計算法について知っている。				
	⑦	確率の計算法について知っている。				
	⑧	数列の計算法について知っている。				
	⑨	ベクトルと複素数の概要について知っている。				
	⑩					

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	一般教育科目「数学」で学んだ内容を見直しておくことをお勧めします。
授業科目についての助言	一般教育科目「数学」で、数学について概念や原理から学んだところですが、数学は最終的には計算になります。この授業科目で、実際に頭を使い手を動かして演習・復習を重ねることで確実に身につけるようにしてください。わからないことは質問をして、積み残しがないようにしましょう。
教科書および参考書	テキスト：自作テキスト 参考書：やさしく理解する 大人のための中学・高校数学（誠文堂新光社）
授業科目の発展性	<div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">数学</div> — <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">数学演習</div>

評価の割合								
指標・評価割合	評価方法	試験						合計
		試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	
評価割合	授業内容の理解度	50	15	15			20	出席に関しては、一回休むごとに-5点とし、4回の欠席で単位認定が出来なくなりますので注意してください。欠席の場合は要連絡。
	技能・技術の習得度	50	15	5				
	コミュニケーション能力							
	プレゼンテーション能力							
	論理的な思考力・推論能力							
	取り組む姿勢・意欲			5			20	
	主体性・協調性			5				

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	ガイダンス 1. 実用数学 (1) 技術者に必要な数式と計算法	講義	三角関数の計算法について復習をしてください。
2週	2. 数学演習 (1) 三角関数 ① 三角比	講義	三角関数の計算法について復習をしてください。
3週	2. 数学演習 (1) 三角関数 ② 正弦・余弦定理	講義	三角関数の計算法について復習をしてください。
4週	2. 数学演習 (1) 三角関数 ③ 加法定理	講義	三角関数の計算法について復習をしてください。
5週	(2) 指数関数 ① 指数関数	講義	指数関数の計算法について復習をしてください。
6週	(2) 指数関数 ② 対数関数	講義	指数関数の計算法について復習をしてください。
7週	(3) 微分・積分 ① 微分係数と導関数 (その1)	講義	微分係数と導関数の計算法について復習をしてください。
8週	(3) 微分・積分 ① 微分係数と導関数 (その2)	講義	微分係数と導関数の計算法について復習をしてください。
9週	(3) 微分・積分 ② 不定積分と定積分 (その1)	講義・確認	不定積分と定積分の計算法について復習をしてください。
10週	(3) 微分・積分 ② 不定積分と定積分 (その2)	講義	不定積分と定積分の計算法について復習をしてください。
11週	(4) 場合の数と確率 ① 順列・組み合わせ	講義	場合の数について復習をしてください。
12週	(4) 場合の数と確率 ② 二項定理	講義	場合の数について復習をしてください。
13週	(4) 場合の数と確率 ③ 確率の計算	講義	確率と期待値について復習をしてください。
14週	(4) 場合の数と確率 ④ 期待値	講義	
15週	(5) 数列 ① 数列とその和	講義	数列について復習をしてください。
16週	(5) 数列 ② 色々な数列	講義	
17週	(6) ベクトルと複素数 ① 平面上のベクトル ② 直交座標 ③ 極座標	講義	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。
18週	評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

訓練支援計画書（シラバス）

別添 6

科名： 各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間/週
訓練課程	専門課程	物理	必修	1・2	2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	自然科学					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場		備考	
授業科目に対応する業界・仕事・技術						
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術						
授業科目の訓練目標						
授業科目の目標	No	授業科目のポイント				
実践技術者として、専門領域において必要となる基礎的な物理についての知識を習得する。	①	SI単位と工学単位について知っている。				
	②	速度と加速度について知っている。				
	③	力の合成・分解について知っている。				
	④	力のモーメントについて知っている。				
	⑤	平行力（偶力）について知っている。				
	⑥	位置エネルギーと運動エネルギーについて知っている。				
	⑦	エネルギー保存則について知っている。				
	⑧	運動量と力積について知っている。				
	⑨	直流電流・電圧について知っている。				
	⑩	交流電流・電圧について知っている。				

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	高校で学んだ「物理」の知識を見直しておくことをお勧めします。
授業科目についての助言	物体の運動などの自然現象を数学的に記述する方法を学びます。その現象を表現するために、物理量単位などの概念を理解し、SI単位系や工学単位についても使いこなせるようになりましょう。
教科書および参考書	参考書： 理解しやすい 物理基礎（文英堂） プリント： 自作プリント
授業科目の発展性	<div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">物理</div> — <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">物理演習</div>

指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合		70	30				
授業内容の理解度		70	30					
技能・技術の習得度								
コミュニケーション能力								
プレゼンテーション能力								
論理的な思考力・推論能力								
取り組む姿勢・意欲								
主体性・協調性								

1・2週	<p>ガイダンス</p> <p>1. 単位と基本定数</p> <p>(1) SI単位</p> <p>(2) 工学単位</p> <p>2. 運動学</p> <p>(1) 速度と加速度</p>	講義	単位と基本定数について復習をしてください。
3・4週	(2) 各種運動	講義	運動学について復習をしてください。
5・6週	<p>3. 静力学</p> <p>(1) 力の合成・分解</p> <p>(2) 運動の法則</p>	講義	静力学について復習をしてください。
7・8週	(3) 剛体にはたらく力 力のモーメント	講義	静力学について復習をしてください。
9・10週	<p>4. 仕事とエネルギー</p> <p>(1) 仕事の定義</p> <p>(2) 位置エネルギーと運動エネルギー</p>	講義	仕事について復習をしてください。
11・12週	(3) エネルギー保存則	講義	位置エネルギーと運動エネルギーについて復習をしてください。
13・14週	(4) 運動量と力積	講義	運動量について復習をしてください。
15・16週	<p>5. 電磁気学</p> <p>(1) 直流電流・電圧</p> <p>(2) 交流電流・電圧</p>	講義	電磁気学について復習をしてください。
17・18週	評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。

訓練支援計画書（シラバス）

別添 6

科名： 各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間／週
訓練課程	専門課程	工業英語	必修	3・4	2	4
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	外国語					
担当教員		曜日・時限	教室・実習場	備考		

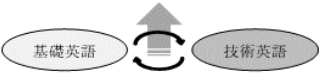
授業科目に対応する業界・仕事・技術

業界・業種を問わず必要とされる基礎技術

授業科目の訓練目標

授業科目の目標	No	授業科目のポイント
科学・技術に関する基本的な英文、生産工程に関する指示文書などを読解し表現する基礎能力を習得する。科学技術分野の基本的な単語に習熟し、簡単な説明文などを作成する基礎能力を習得する。	①	技術英語の基本文法を覚える
	②	科学技術分野の英単語を覚える
	③	科学・技術に関する英文の文章を読む
	④	英文マニュアルを読む
	⑤	生産工程に関する英文の指示文、注意事項の読み方を学ぶ
	⑥	生産現場の英文の掲示文、看板の読み方を学ぶ
	⑦	技術英語で使われる特殊な文法を覚える
	⑧	簡単な英文の説明書を書く
	⑨	簡単な英文の操作指示文を書く
	⑩	製造現場における一般的な英会話の実践練習をする

授業科目受講に向けた助言

予備知識・技能技術	一般教育科目「英語」で学んだ内容を見直しておくことをお勧めします。
授業科目についての助言	近年は、国際化が進みどの分野の技術者であっても更なる英語力の習得が求められています。この授業科目では、一般教育科目「英語」で身につけた英語力を元にして、技術英語の語彙や基本表現法を養います。また、専門技術資料の英文を読む力、簡単な説明書や指示書を英文で書く力を養い、技術英語の基礎力を身につけます。この科目の学習内容は製造現場で活用していきますから、企業の即戦力となっていくよう苦手意識を捨てて意欲的に学習していただけることを願っています。
教科書および参考書	「技術英語ハンドブック」・「製造現場の英語」・その他自作資料
授業科目の発展性	 <p>これまで学んできた基礎英語を技術英語により発展させることで、実践的な語学力の習得を目指します</p>

評価の割合

指標・評価割合	評価方法							
	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計	
評価割合		40	30	10			10	10
	授業内容の理解度	20	10	10				
	技能・技術の習得度	10	10					
	コミュニケーション能力							
	プレゼンテーション能力						10	
	論理的な思考力・推論能力	10						
	取り組む姿勢・意欲			10				
主体性・協調性								

週	授業の内容	授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	ガイダンス・シラバスについて・工業英語の基礎・技術英検の紹介 小テスト①・次回テストの準備	講義	これまで学んできた英語の復習 「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
2週	小テスト②・次回テストの準備 科学技術分野の英単語・必須表現パターン Part-1	講義	「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
3週	小テスト③・次回テストの準備 科学技術分野の英単語・必須表現パターン Part-2	講義	「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
4週	小テスト④・次回テストの準備 科学技術分野の英単語・必須表現パターン Part-3	講義	「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
5週	小テスト⑤・次回テストの準備 科学技術分野の英単語・必須表現パターン Part-4	講義	「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
6週	小テスト⑥・次回テストの準備 製造現場の英会話 Part-1 注意事項を読む1・2	講義	「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
7週	小テスト⑦・次回テストの準備 製造現場の英会話 Part-2 注意事項を読む3・4 中間テストの準備	講義	この授業科目の復習 「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
8週	小テスト⑧・次回テストの準備 中間テスト	評価	この授業科目の復習 「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
9週	小テスト⑨・次回テストの準備 中間テストの復習 科学技術分野の英単語・必須表現パターン Part-5	講義	「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
10週	小テスト⑩・次回テストの準備 生産現場の基本表現1・2 看板を読む1・2	講義	「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
11週	小テスト⑪・次回テストの準備 生産現場の基本表現3・4 看板を読む3・4	講義	「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
12週	小テスト⑫・次回テストの準備 生産現場の基本表現5・6 注意事項を読む5・6	講義	「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
13週	小テスト⑬・次回テストの準備 製造現場で使われる英語表現 Part-1	講義	「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
14週	小テスト⑭・次回テストの準備 製造現場で使われる英語表現 Part-2 期末テストの準備	講義	この授業科目後半の復習 「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
15週	小テスト⑮・次回テストの準備 期末テスト	評価	この授業科目後半の復習 「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
16週	小テスト⑯・次回テストの準備 期末テストの復習	講義	「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
17週	小テスト⑰・次回テストの準備 工業英語エッセイ作成・発表 第1回 資料：相手に伝わるプレゼンテーション	講義	この授業科目全体の復習 「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」
18週	小テスト⑱ 工業英語エッセイ作成・発表 第2回 まとめ：工業英語とは・製造現場のコミュニケーション	講義	この授業科目全体の復習 「技術英語ハンドブック」 「製造現場の英語」

訓練支援計画書 (シラバス)

令和6年度 住居環境科, 生産技術科, 電子情報技術科, 電気エネルギー制御科, メカトロニクス技術科

授業科目の区分		授業科目名	必須・選択	開講時期	単位	時間/週
訓練課程	専門課程	保健体育	必須	I ~ III期/ メカトロニクス技 術科 I ~ II	3 / 2	2
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	保健体育					
担当教員	研究室名	内線電話番号	電子メールアドレス			
萬代・小田	外部講師					

授業科目に対応する業界・仕事・技術

自己の健康について認識を深めつつ, 実践(スポーツ活動)を通して健康的なライフスタイルを維持するための方法を学ぶことは, 仕事をする上で重要なことであるとする。

授業科目の訓練目標

授業科目の目標	No	授業科目のポイント
①現代社会における健康問題を理解し, 健康的なライフスタイルを確立するために重要な運動・栄養・休養について考察する。また安全で合理的な運動を実践するために運動処方論について講義する。 ②実際に運動(スポーツ)を実践し, 生涯を通じて行える運動を見つけ, 運動の必要性を体験する。	①	運動に対する興味を深める。
	②	個人の責任を果たし, かつ社会性を養う。
	③	集団種目を実施し, 協調性を養う。
	④	種目のルールを守り, フェアプレー精神を養う。
	⑤	生涯スポーツとしてのレクリエーション活動(ニュースポーツの体験)。
	⑥	健康なライフスタイルの確立。
	⑦	
	⑧	
	⑨	
	⑩	

授業科目受講に向けた助言

予備知識・技能技術	特に無い。
授業科目の助言	運動(スポーツ)を実践する中で, 心と体の健康を維持できるようにする。障害や外傷が起こらないように, 準備体操をしっかりと行うようにする。授業最後に本授業の振り返りアンケートを行い自己評価を行なわせる。
教科書および参考書	教科書および参考書は, 特に無い。ただし, 新しい種目などを実施する際には, 実施方法やルールを記載したプリントを配布する。
授業科目の発展性	授業を通して経験したスポーツを自身の余暇活動に取り入れ, コミュニケーションツールとして積極的に身体活動を実施する。それは, 生活習慣病などを未然に防ぐ対策となり, 健康で生きがいを持ったライフスタイルの一助となる。

評価の割合

指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
	評価割合		30					70
授業内容の理解度		20					15	
技能・技術の習得度							10	
コミュニケーション能力							10	
取り組み姿勢・意欲		10					15	
主体性・協調性							10	
モラル・マナー							10	

週	授業の内容		授業方法	訓練課題 予習・復習
1週	オリエンテーション・体ほぐし・アイスブレイキング	体育館	座学・実技	体育の受講における注意事項の説明(出欠席・授業内容・準備物・成績評価・単位認定等)。体ほぐし運動。
2週	ラジオ体操第1, キンボール・テニス・フットサル・バスケット	運動場 体育館	実技	準備運動の重要性を理解させ, それぞれの競技種目における基礎的技術の確認と習得。運動を通じてコミュニケーション作り。
3週	ラジオ体操第1, キンボール・テニス・フットサル・バスケット	運動場 体育館	実技	準備運動の重要性を理解させ, それぞれの競技種目における基礎的技術の確認と習得。運動を通じてコミュニケーション作り。
4週	ラジオ体操第1, テニス・フットサル・バスケット	運動場 体育館	実技	基礎的技術を活用しゲームを責任もって実施する。

5週	ラジオ体操第1、テニス・フットサル・バスケット	運動場 体育館	実技	ゲームを実施する中で、個人技能を発揮し、さらにチームメイトとの協調性を養う。
6週	ラジオ体操第1、テニス・フットサル・バスケット	体育館 運動場	実技	基礎的技術を活用しゲームを責任もって実施する。
7週	ラジオ体操第1、テニス・フットサル・バスケット	運動場 体育館	実技	前回と比較して上達しているかを確認する。個人の課題点を理解し、技能上達に取り組む。
8週	ラジオ体操第1テスト、ターゲットバードゴルフ・バレーボール	運動場 体育館	実技	ラジオ体操評価と新しい種目の基礎的技術と習得。
9週	ターゲットバードゴルフ・バレーボール	運動場 体育館	実技	新しい種目に対してチャレンジする。その中で積極性を養う。
10週	ターゲットバードゴルフ・バレーボール	運動場 体育館	実技	基礎的ルールと技術を身につけゲームを責任もって実施する。
11週	ニュースポーツ・サッカー・ソフトボール	運動場 体育館	実技	基礎的ルールと技術を身につけゲームを責任もって実施する。
12週	健康の維持・増進についての講義	教室	講義	生活習慣病と運動を考察。後半の授業内容を確認する。
13週	ニュースポーツ・サッカー・ソフトボール	運動場 体育館	実技	ゲームを実施する中で、個人技能を発揮し、さらにチームメイトとの協調性を養う。
14週	ニュースポーツ・サッカー・ソフトボール	運動場 体育館	実技	ゲームを実施する中で、個人技能を発揮し、さらにチームメイトとの協調性を養う。
15週	ニュースポーツ・サッカー・ソフトボール	運動場 体育館	実技	ゲームを実施する中で、個人技能を発揮し、さらにチームメイトとの協調性を養う。
16週	ニュースポーツ・アルティメット・ソフトバレーボール	運動場 体育館	実技	新しい種目に対してチャレンジする。その中で積極性を養う。
17週	ニュースポーツ・アルティメット・ソフトバレーボール	運動場 体育館	実技	基礎的ルールと技術を身につけゲームを責任もって実施する。
18週	ニュースポーツ・アルティメット・ソフトバレーボール	運動場 体育館	実技	ゲームを実施する中で、個人技能を発揮し、さらにチームメイトとの協調性を養う。
19週	ニュースポーツ・アルティメット・ソフトバレーボール	運動場 体育館	実技	ゲームを実施する中で、個人技能を発揮し、さらにチームメイトとの協調性を養う。
20週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	運動場 体育館	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
21週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	運動場 体育館	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
22週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	運動場 体育館	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
23週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	運動場 体育館	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
24週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	運動場 体育館	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
25週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	運動場 体育館	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
26週	選択種目(ソフトボール・ニュースポーツ・バドミントン・卓球など)	運動場 体育館	実技	数種類の中から自身の興味がある種目を選択し、それを責任もって実施する。
27週	授業評価点検および試験	教室	講義	試験・授業評価と点検を実施する。

訓練支援計画書

科名：各科共通

授業科目の区分		授業科目名	必修・選択	開講時期	単位	時間/週
訓練課程	専門課程	英語	必修	1・2	2	1コマ
教科の区分	一般教育科目					
教科の科目	外国語					
担当教員		内線電話番号	電子メールアドレス		教座・実習場	
山崎		225			A301	

授業科目に求められる業界・仕事・技術
業界・業種を問わず必要とされる基礎技術

授業科目の到達目標		
授業科目の目標	No	授業科目のポイント
日常英会話及びビジネス英会話ができる基礎能力を習得し、併せて英文読解の基礎能力を習得する。	①	日常英会話の一般的な表現について知っている。
	②	ビジネス英会話における挨拶・自己紹介について知っている。
	③	ビジネス英会話における電話対応について知っている。
	④	ビジネス英会話における会社訪問について知っている。
	⑤	工業英語における英文マニュアルの読解について知っている。
	⑥	工業英語における英字新聞の読解について知っている。
	⑦	工業英語におけるホームページの読解について知っている。
	⑧	
	⑨	
	⑩	

授業科目受講に向けた助言	
予備知識・技能技術	高校で学んだ「英語」の知識を見直しておくことをお勧めします。
授業科目についての助言	これからの社会はさらに国際化が進み、どの分野の技術者であっても更なる英語力が必要とされる時代となっています。この授業科目では、業界を問わず社会で必要とされる日常英会話並びにビジネス英会話の基礎を身につけ、英文による技術的文献の読解に必要な英語力の基礎を養うことを目的としています。基本の4技能（聞く、話す、読む、書く）の向上を意識しながら積極的に学び、就職時に役立つことを期待します。
教科書および参考書	テキスト：自作テキスト English Aid 基礎から学べる大学英文法総合演習（金星堂）
授業科目の発展性	<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px 10px;">英語</div> <div style="font-size: 24px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px 10px;">工業英語</div> </div>

評価の割合								
指標・評価割合	評価方法	試験	小テスト	レポート	制作物	成果発表	その他	合計
評価割合	授業内容の理解度	30	30	20			20	100
	技能・技術の習得度	10	10					
	コミュニケーション能力		10					
	プレゼンテーション能力			10				
	論理的な思考力・推論能力	10			10			
	取り組む姿勢・意欲				10		10	
	主体性・協調性						10	

週	授業の内容	授業方法	副課題 予習・復習
1週	ガイダンス 1. 日常英会話 (1) 日常表現	講義	日常英会話について復習をしてください。
2週	1. 日常英会話 (1) 日常表現	講義	日常英会話について復習をしてください。
3週	(2) 英会話で表現	講義	日常英会話について復習をしてください。
4週	(2) 英会話で表現	講義	日常英会話について復習をしてください。
5週	(3) 各場面での英会話 2. ビジネス英会話 (1) ビジネス場面での英会話 ① 挨拶・自己紹介	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
6週	(3) 各場面での英会話 2. ビジネス英会話 (1) ビジネス場面での英会話 ① 挨拶・自己紹介	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
7週	② 電話対応	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
8週	② 電話対応	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
9週	③ 会社訪問	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
10週	③ 会社訪問	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
11週	④ リスニング	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
12週	④ リスニング	講義	ビジネス英会話について復習をしてください。
13週	3. 英文読解 (1) 工業英語 ① 英文マニュアルの読解	講義	工業英語について復習をしてください。
14週	3. 英文読解 (1) 工業英語 ① 英文マニュアルの読解	講義	工業英語について復習をしてください。
15週	① 英文マニュアルの読解 ② 英字新聞・ホームページ読解	講義	工業英語の概要について復習をしてください。
16週	① 英文マニュアルの読解 ② 英字新聞・ホームページ読解	講義	工業英語について復習をしてください。
17週	② 英字新聞・ホームページ読解	講義	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。
18週	② 英字新聞・ホームページ読解 評価	講義 評価	この授業科目で学んだこと全体の復習をしてください。